

今学期は、実際に初めて外国人に日本語を教えるという経験をした。三回の授業を通して、自分の強みや弱点を知ることができ新たな気づきを得た。この模擬授業を通して、後期の実習を成功させるよう、自分の課題を掘り下げていこうと思う。

初めに、この三回の授業を通して、私は自分の予想以上に緊張してしまった。特に初回の授業は、後で見直すと情けないくらいの姿であった。つくづく自分は人の前に立つことに慣れていないなと思わされた。後期の実習での一番の課題だ。私は、小さい時から緊張がすぐ顔に出てしまう。緊張で顔が真っ赤になってしまうのだ。反応が一番分かりやすいところで出てしまうため、他人が羨ましく思うことがよくある。なぜ顔という特定の部分だけこんなに血の巡りがよくなるのだろう。手汗がすごく出たり、手が震えたりするなどの方がよっぽどマシなのになどと考えることがよくあった。原因を考えてみた。見ている人たちが、知っている人達。単純に準備不足。経験不足...。などなど考えられることがいくつかある。見ている人が全く知らない人達のほうが上手く話すことができるかもしれない。自分でも分からないので、次回そのようなことがあったら気にしてみようと思う。準備不足や、経験不足というようなことは、自分の努力次第で変えられることである。例えば、準備不足ということには授業をしていくことで、どこまで考えてこななければいけないかを自分で予想できるようになってくると思う。初めのうちは、自分は準備をしたつもりでも、予想外な質問を投げかけられたり、説明の不備が起きたりしてしまう。そこを、慣れていくことで、学習者はこんな質問をしてくるのではないか、この説明の仕方の方が分かりやすいのではないかと予測がつくようになり、自信を持って答えられるようになるのではないだろうか。より良い授業を目指していくと、その過程で自分自身に変化が起きると思う。他に第一声を大きくすると良いというのも耳にしたことがある。私は、声はある程度出ると自分では思うので、そこは継続していこうと思う。

また、力みすぎるのも良くないと考える。そう考えたときに頭の中で明石家さんまさんの好きな言葉が思い浮かんだ。「俺は、絶対落ち込まないのよ。落ち込む人っていうのは、自分のこと過大評価しすぎやねん。過大評価しているから、うまくいかなくて落ち込むのよ。」これは発表する場のときでも言えることだなと思った。自分自身を顧みて「一生懸命になりすぎたり熱が入りすぎたりするのかな、だから成果を気にしすぎて空回りするのかもしれない」ということに気付いた。もっと楽にしてある程度力が少し抜けているくらいの方が、私には良いのかもしれないと思った。関連してもう一つ最近読んだ本の中で、心に残って覚えている言葉がある。最近多方面の場で活躍しているローランドさんという人物がいるのだが、彼はその個性的なキャラクターから今人気を得ている。彼はとにかく自己愛が強く、自信の塊のような人だが、それに嫌みがないので人間性が評価されているのだ。彼の自信を持てるようになるアドバイスとして、「自信のあるフリでいい。自信のあるフリを頑張ってやっごらん」というのがあった。様々なトピックで書かれていた本だが、特にこの言葉が印象に残っていて、そのあと、「なるほど」と思った。そうか、フリなら私も出来そうだなと思ったのだ。この三回の授業をしていた自分に今アドバイスするとすれ

ば、力みすぎず硬くならないで、自信があるフリを役者になりきってやってみよう！ということだ。後期の実習では、これらのことを気に留めながら授業に臨みたい。とにかく一人で空回りせず、過度に自分にプレッシャーを与えないようにしたい。

次に気付いたこととして、落ち着きのなさである。「落ち着きのなさは足に出る」とよく言われているが、それは正に私に当てはまり、普通に座って友人と話しているときにも足がじたばたして指摘されたことがある。早口なところや、せっかちなところも付随する。熱中するととても早口になり言葉が多くなるし、信号の待ち時間などもイライラするので、何かしないといけないと思ってしまうのだ。親にはマイペースと言われるが、本当はゆっくりする時間を確保したいから、その分他のことはテキパキしようとしているのだと思う。しかし、授業の中でも落ち着きのなさが出ていたので、無意識のうちで自分の性格がこんなところに出てしまうのはデメリットだと思った。例えば、常に身体が動いているということに気付いた。椅子が回るものだとくるくる動かしてしまうし、髪を触ったり、手足が異常に動いたりということも、無意識のうちにしていた。何かしていないと落ち着かなく、じっとしていることが本当に苦手なのだ。しかしやはり、自分の日常生活の上でせっかちなのは人に迷惑をかけないが、仕事をするときや、他者と関わるときには人に圧迫感を与えてしまったり急かしていると思われたり、だらしがないと思われたりするので、少しずつ治していきたいと思っている。加えて、私は普段は学習者の立場なので、学習者として教師を見ている。そのため、教師の細かい癖や口癖に良く気付く。教師は案外生徒に見られていて、特にそのようなことは小さなことに見えるが、はっきり覚えられてしまうのだ。だから、落ち着きがなくて仕草が多すぎると、気になる人は大勢いると思った。「三回の授業を通して、このことに気付いてよかった」とポジティブに考え、気を付けていきたい。

最後にこれからの抱負としていくつか挙げたい。正直この三回の授業だけでは自分が満足するほどの見違えるような変化はなかったので、残念で悔しいが、負けず嫌いなので後期の教壇実習授業では、必ず今期の授業を超えて、今回なかった達成感を味わいたい。具体的には、先ほど挙げた、あがらないようにすることと、落ち着きのある教師を目指すことだ。残りの学生生活では主に TOEIC で目標とする点数を出すことが第一の目標だが、最近は少し日本語教育能力検定の受験を考えている。ただ、授業を取っているからという理由ではなく、読書をしたり文章を書いたりすることで、自分の日本語力を磨きつつ英語にも力を入れ、言葉を堪能に扱えたり意味の説明ができたりするように努めていきたい。